

ひとり情シス・ゼロ情シス企業 を置き去りにしないDX

“いいじかん設計”が導く中小企業の未来

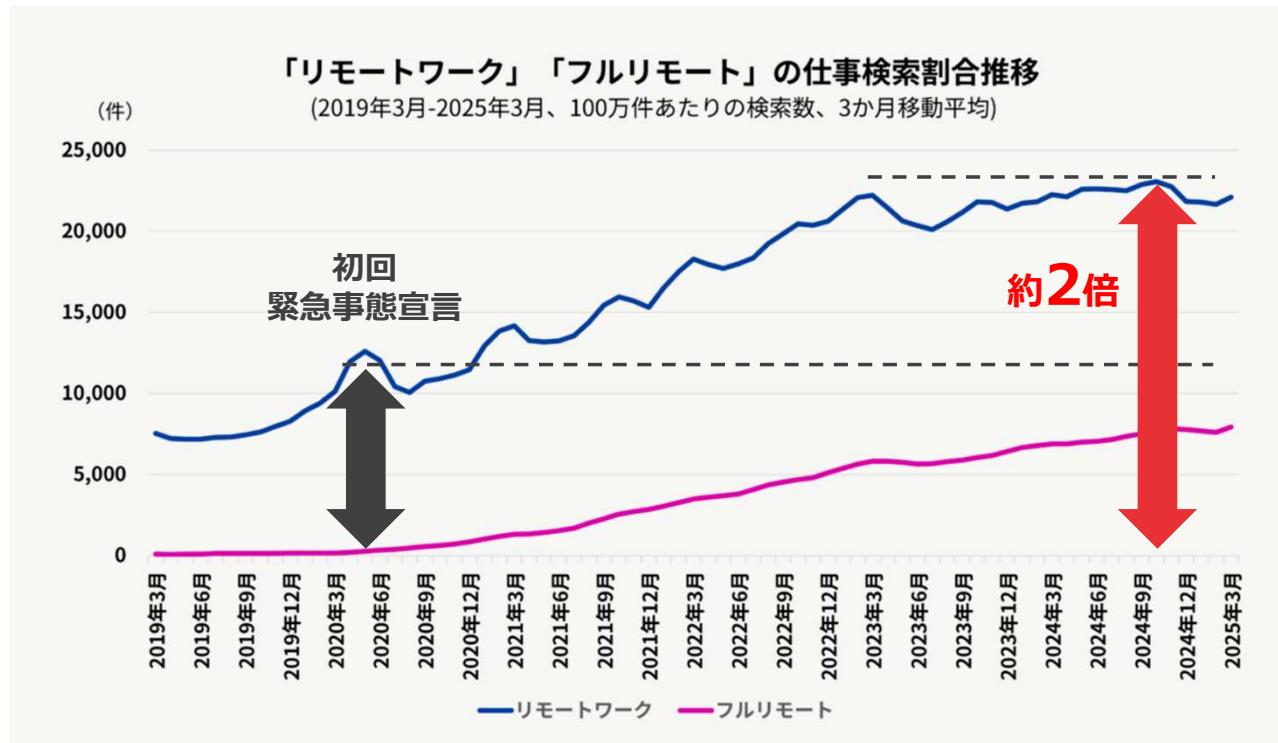
コニカミノルタジャパン株式会社

多様な視点で未来をデザインする
RETHINK WHAT'S POSSIBLE

Giving Shape to Ideas



「働き方の多様化」に伴う企業周辺の変化

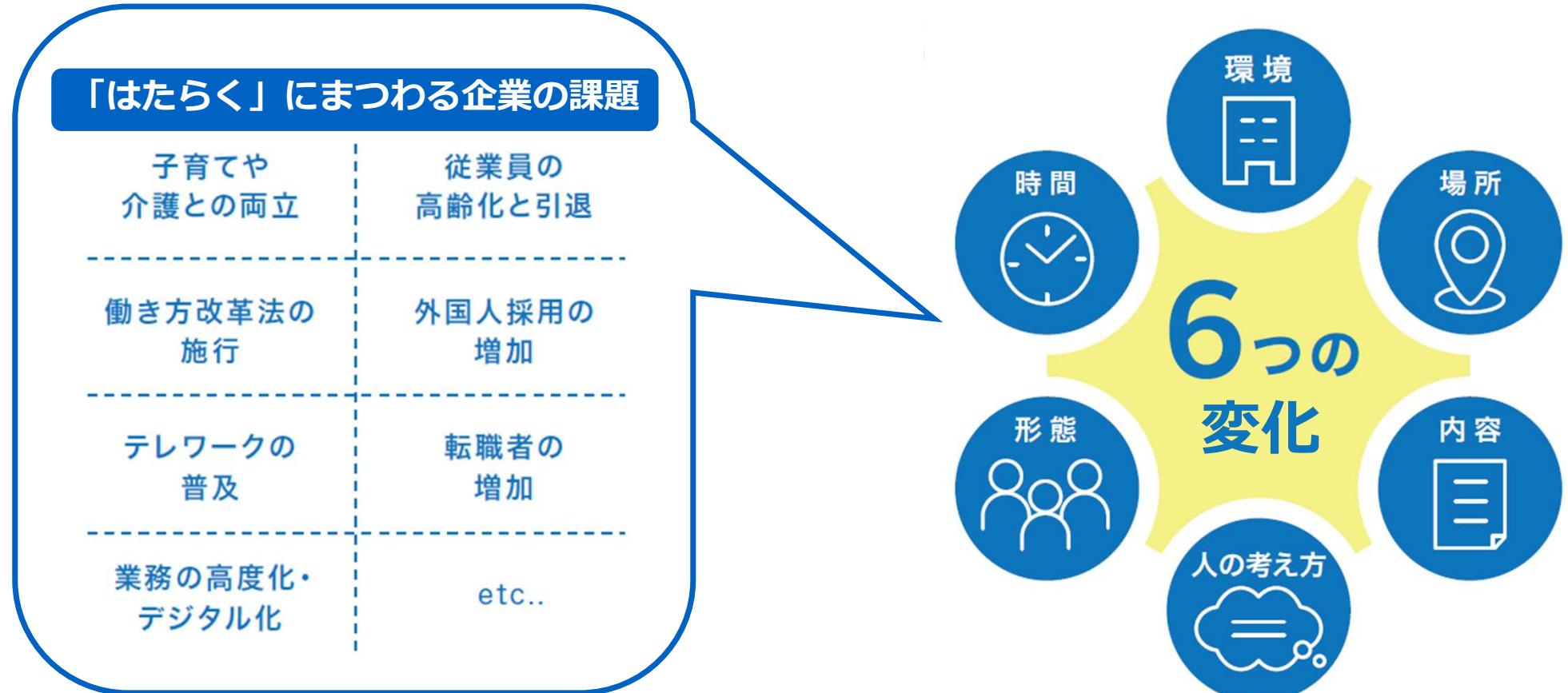


- 求職者がテレワーク環境が求める状況はコロナ禍限りではなく、むしろ**2020年当時の倍近くに増大中***1
- 2025年10月に施行された育児・介護休業法改正により、育児中の就労者がテレワークを選択できる環境の整備が中小企業でも努力義務化*2

*1 : Indeed Japan株式会社調査 <https://jp.indeed.com/news/releases/20250422>

*2 : 厚生労働省資料 <https://www.mhlw.go.jp/content/11900000/001259367.pdf>

「はらく」の変化にまつわる6つの要素



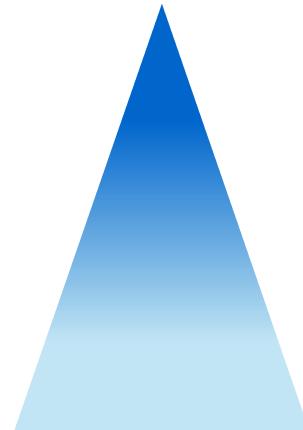
つまり、「どこで働くか」だけでなく、「どう働けるか？」が問われる時代に

多くの中小企業の現状



- ・業務にPCやスマートフォンを使いつつも、**紙文書**からは離れられず
- ・郵便やFAXは以前と比べて減少してはいるもののゼロにはならず、業務の種数は高止まり
- ・複雑化した業務の「属人化」が深く進行

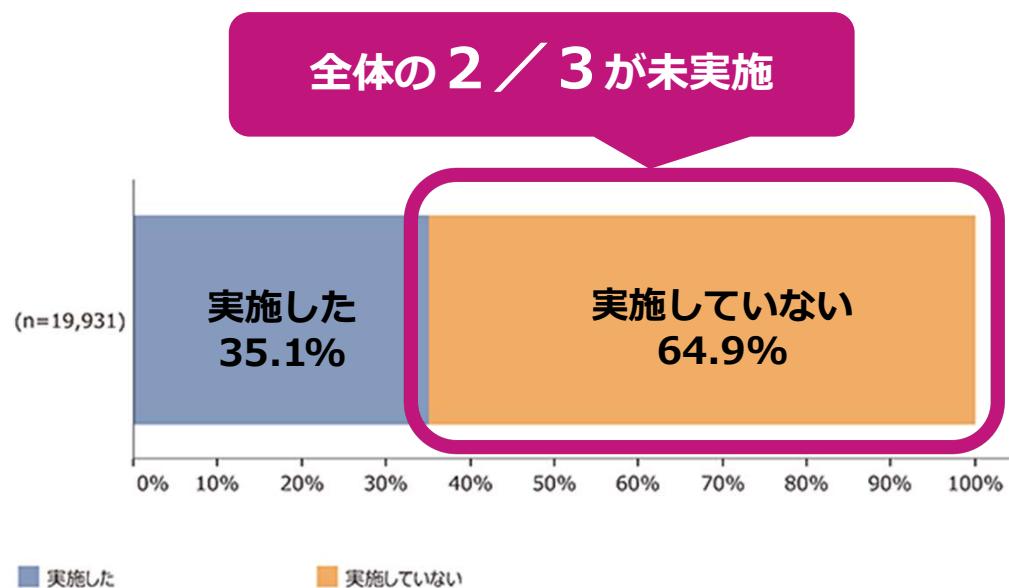
強く感じられるのは
DXの格差



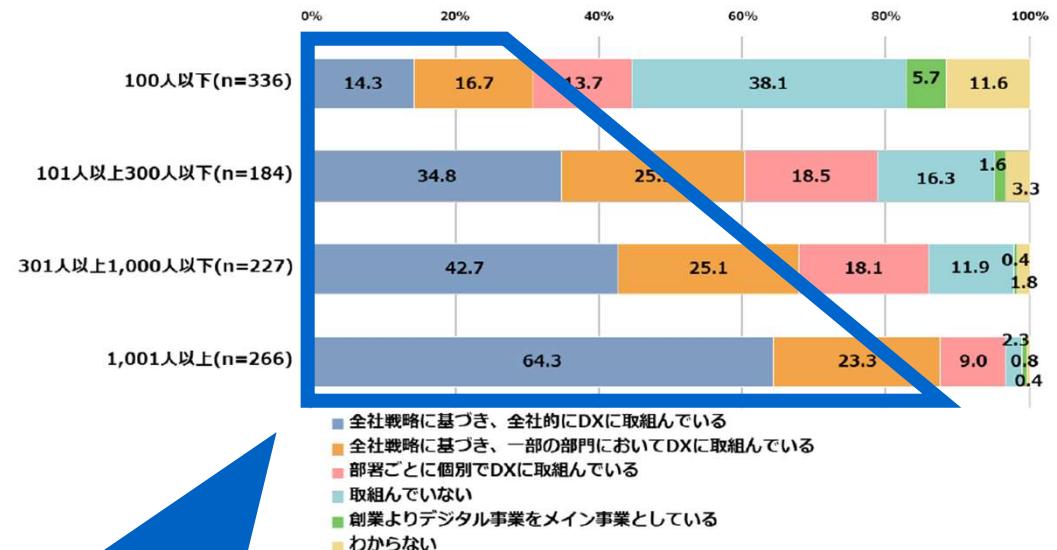
「DX格差」の現状



◆ 「人手不足対応を目的とした設備投資」の実施有無



◆ DX の取り組み状況（従業員規模別）



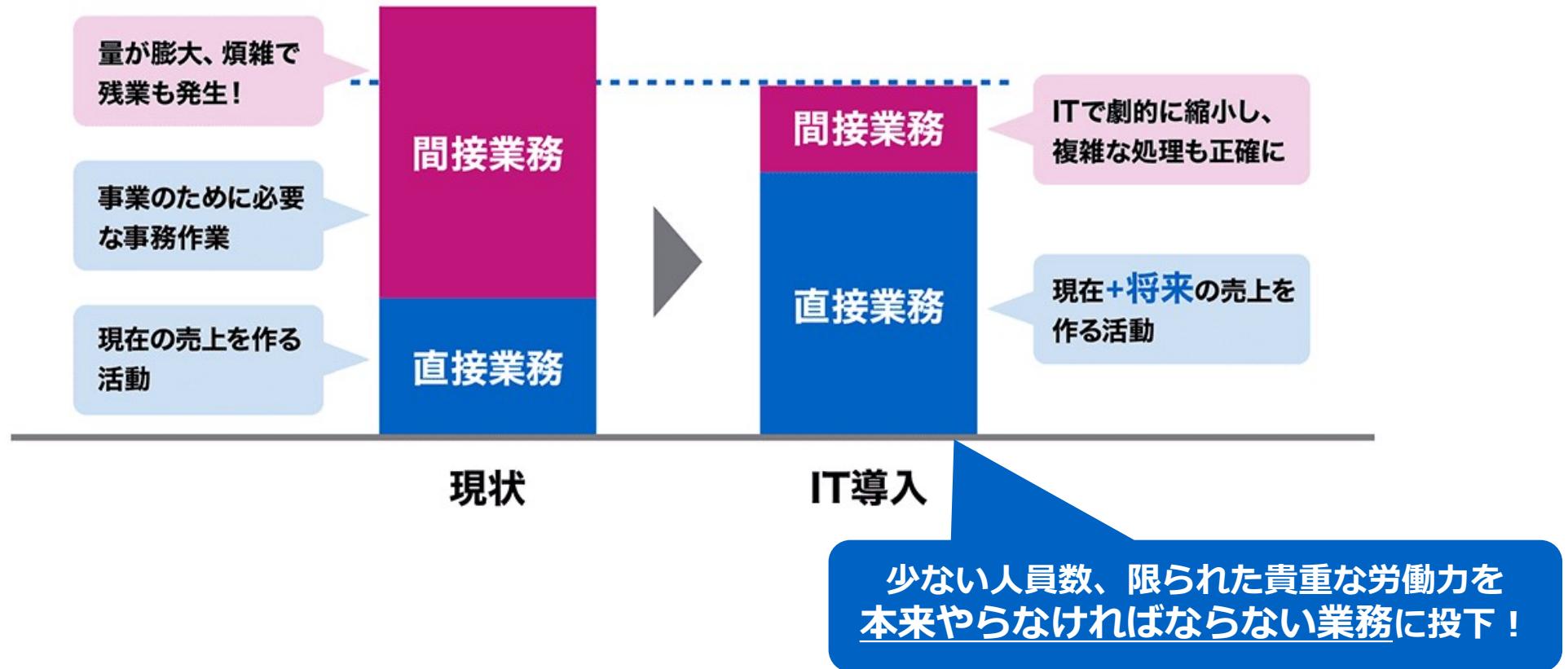
※資料：独立行政法人 情報処理推進機構「DX動向2024」

全社・組織でDXに取り組んでいる企業割合
100名以下：わずか31%

ITの目的は「生産性向上」から「事業継続性の確保」へ



- ◆ 「利便性」「見栄え」「トレンド追従」はITの本当の価値ではない



放置した先に待ち受ける未来



◆ 知識やスキルを持つ人も、いずれ老齢により定年退職や引退へ

① 経営者／管理職の引退

→マネジメント力の低下



② 技能・スキル保持者、指導者の引退

→製品・サービス品質／自社の「強み」の消失

③ 資格保持者の引退

→検査・管理・監督業務の法規不適合



④ 後継者候補の連鎖退職（DX離職）

→魅力を失った企業からは中堅・若手も離反

多くの中小企業での誤解



数々の中小企業と接している中で多く聞かれる声：

- ・「自社にまともな**情シス**がない」から、
- ・「**IT**の知識が無い」ため、
- ・「DXが進められない」。

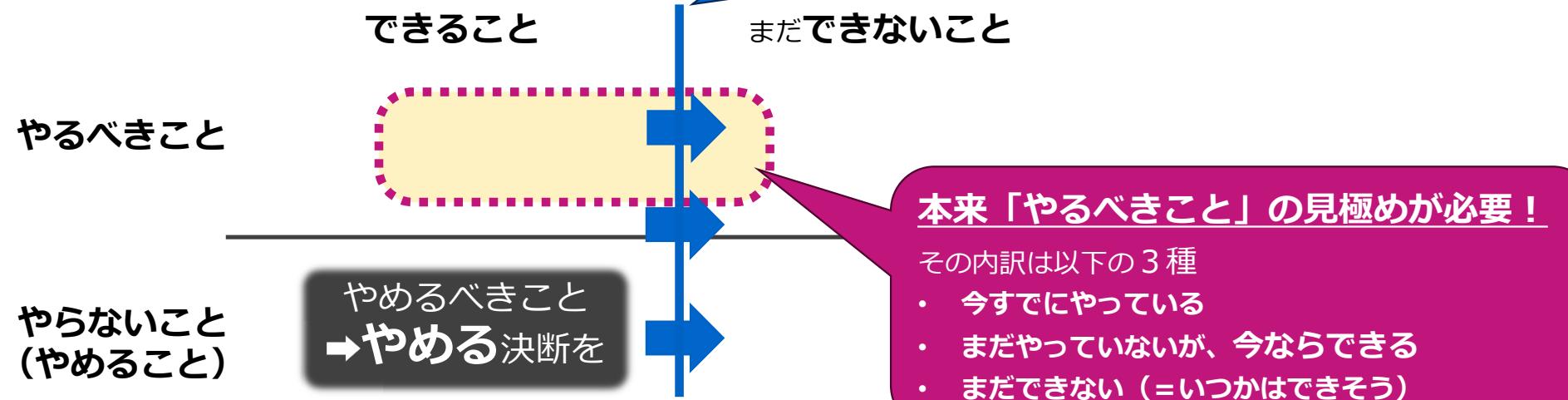
その背景には「DX = 先進的なITツールの導入」という**誤解**あり

「IT活用でできること」と「自社がやるべきこと」の違い



DXとは“テクノロジーの話”ではなく、“はたらき方を設計すること”

無線通信（IoT）、クラウド系業務アプリ、ノーコード／ローコードツール、生成AIなどなど
ITの進化は「できること」を増やしたが…



DXにおける中小企業の弱み：IT知識不足 → 業務の理想像の設計不足

直面した困りごとに対して断片的な解決アイデアを思くことはあっても、
業務全体に対して「本来こうあるべき」という理想像は描きにくいもの。

DXを「じぶん事化」したコニカミノルタの13年史

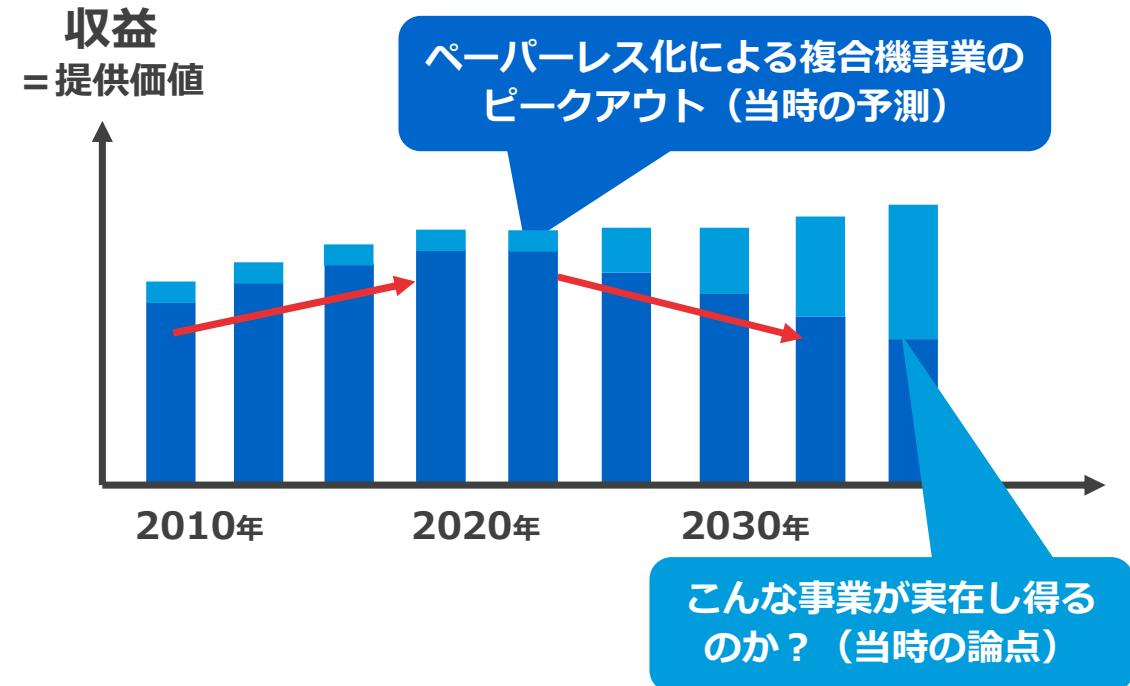


- 2010年代突入のころ、複合機業界には既にペーパーレス社会到来の予兆が見え始めていた
- 紙媒体以外の手段が選ばれていく中で、我々は今まで通りで良いのだろうか？について議論を重ねた

「複合機の存在価値が縮小した時、私達自身の存在価値＝お客様に貢献できることは何なのか？」

- お客様のペーパーレス化を遮る方法より、**お客様がペーパーレス化で困った時に頼れるアドバイザーになれる**ことを先回りして考え、自社内のペーパーレス化に率先して取り組みを開始

→ペーパーレス化の先に据えた課題は、“自分たちの働き方を**変えること**”



「いいじかん設計」の誕生まで



2013年より取り組み開始

- ・ **フリーアドレス**：オフィスを全く新しく作り変え、部門ごとの部屋や固定席をなくし広大なワンルームに
- ・ **ペーパーレス**：富士山の高さを超えるほどの紙文書を廃棄。当初はリバウンドもしたが、更にそれを克服
- ・ **5年間の試行錯誤**の後、その取り組みノウハウがお客様にご提案できる商品となることを確信



その時に誕生したのが『いいじかん設計』というコンセプトワード

社員一人ひとりが良い時間を過ごせるように、業務を再設計
そのためにITをどう活かせるか、という考え方に基づく

コニカミノルタジャパンによるお客様の「いいじかん設計」支援



お客様に合った理想の「はたらく」を共に設計

MODEL 1:

はたらく場所・時間
を超えるコミュニケーション



MODEL 2:

一人ひとりが本来の
能力を発揮する業務
効率化



MODEL 3:

柔軟な働き方と
セキュリティー
の両立



4事業の連合「ワークスタイルデザイン事業」で実現

ITサービス事業

- 業務プロセス改善に必要なサービスの支援と意思決定を可能とするデータ活用環境を構築



マーケティング事業

- Web、プロモーションによる企業価値の向上と、マーケティング活動の可視化による効果の最大化を実現



複合機事業

- 業務生産性向上の起点となるデバイスとして、最適な出力環境とデータ化の入力環境を提供



空間デザイン事業

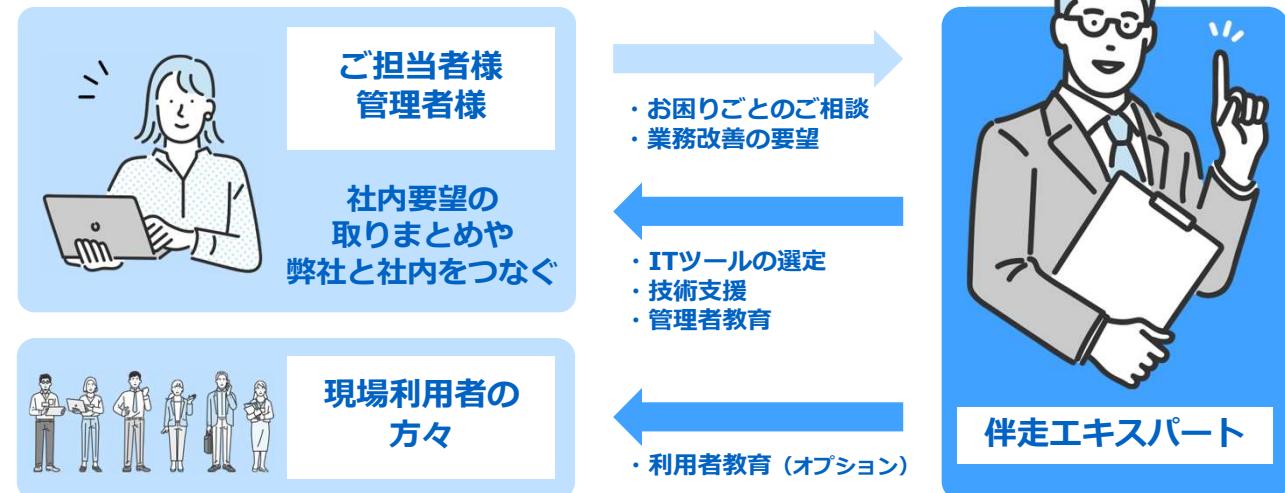
- 経営課題の解決や従業員のパフォーマンス最大化など戦略的な空間づくりをサポート



2025年 中小企業向け“伴走型DX支援”を開始



“使えるDX”を現場に届ける
**コニカミノルタの
伴走支援サービス**



お問い合わせはこちらのQRコード
または下記メールアドレスまで

dx-support@konicaminolta.com

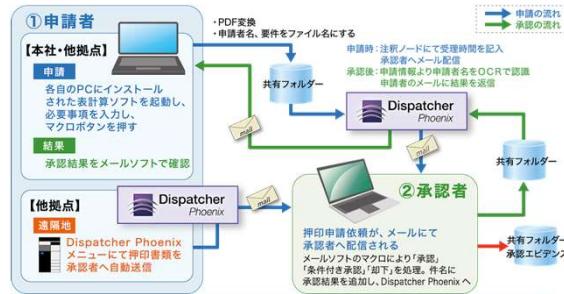


伴走支援サービス 3つのステップ[®]



1. 業務の棚卸し

関係者（社内外）を巡る業務フローと、現状そのやりとりで使われている媒体・通信手段を洗い出す



2. 変革設計

本当に必要な業務と成果物の見直し

やるべき業務にどんなツールやシステムが最適なのかを選定していく



3. 教育・運用

新システム利用者向けの説明、トレーニングを実施。

運用開始後も「置き去り」の社員を無くし、定着を確固たるものに

中小企業の「弱み」を克服しつつ、独自の取り組み方を尊重する 人にやさしいDX支援

お問い合わせはこちらのQRコード
または下記メールアドレスまで

dx-support@konicaminolta.com





KONICA MINOLTA